

**令和7年度
学校推薦型選抜
文化学科
[言語文化系／地域文化創造系]
小論文
問題・出題の意図・採点評価基準**

令和6年11月16日

高知県立大学

問 次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

（配点 200点）

著作権者から公衆送信の許諾を得ていない為著作物の引用部分のみ削除して提供します。

著作権者から公衆送信の許諾を得ていない為著作物の引用部分のみ削除して提供します。

出典：百木漠「労働と余暇の未来—ケインズの未来社会論を手掛かりに」、『フューチャー・デザインと哲学 世代を超えた対話』西條辰義・宮田晃碩・松葉類編、勁草書房、2021年

（出題の都合上、出典の文章の一部を省略・改変した。）

注：

ケインズ…ジョン・メイナード・ケインズ（1883～1946年）。イギリスの経済学者。

「暇と退屈」…國分功一郎『暇と退屈の倫理学』（朝日出版社、2011年）の書名からの引用。

問1 下線部(1)「AI+BIによる革命」とは、どういうことか。本文に即して、200字以内の日本語でまとめなさい。

(配点 100点)

問2 下線部(2)「「暇と退屈」の問題こそが将来世代にとっての最大の課題となるであろう」とあるが、本文の内容をふまえて、このことに対するあなたの考えを400字以内の日本語で述べなさい。

(配点 100点)

<出題の意図>

問1 人工知能とベーシックインカムを手掛かりに「労働と余暇の未来」について書かれた課題文を正確に読み取ることができるかどうかを見る。

問2 課題文の内容に基づいて、人工知能とベーシックインカムによる「労働からの解放」がもたらす余暇の過ごし方の問題を、論理的に記述する能力を見る。

<採点評価基準>

問1 次の点を見て評価する。

- (1) 課題文の内容を正確に理解することができるか（読解力）。
- (2) 筆者の考えを、適切な文章で表現できているか（文章表現力）。

問2 次の点を見て評価する。

- (1) 課題文の理解に基づいて、論述できているか（読解力、知識・理解力）。
- (2) 自分の意見を、論理的かつ的確に表現することができるか（論理的思考力、文章表現力）。